IZUMI NEWS

学校法人 和泉短期大学
創立60周年記念号

2016年8月 vol. 30

2016年度 聖句

「人にしてもらいたいと思うことは何でも、
あなたがたも人にしなさい」
（マタイによる福音書第7章12節）

IZUMI topics

CONTENTS

法人創立60周年特集 …… 2～10
和泉の学生生活 …… 11
卒業生の活躍 …… 13
2015年度決算書・2016年度予算書 概要 …… 14～15

IZUMI NEWS vol.30　学校法人 和泉短期大学　広報渉外ユニット　発行責任者　理事長 深町正信

〒252-5222　神奈川県相模原市中央区青葉2-2-1 ｜ Tel: 042-754-1133（代表） ｜ http://www.izumi-c.ac.jp

創立60周年を迎えて

学校法人 和泉短期大学 学長　佐藤　守男

「学校法人 和泉短期大学」が創立60周年を無事に迎えることができましたことを、感謝申し上げます。

本学は、「米国財団 Christian Children's Fund」のクラーク博士、ミルス博士、そして、ララ物資 配給責任者バット博士たちが中心となりまして、世田谷に保育士の現任訓練機関「バット博士記念養成所」を設立したことから始まります。そしてこの養成所が「玉川保母専門学院」となり、「和泉短期大学」へと発展し、今年で創立60年を迎えることができました。

この「米国財団CCF」は、世界にたくさんの児童の施設を作りました。しかし、学校をつくりましたのは、日本の「和泉短期大学」だけでありまして、ここに〝和泉の使命〟があります。

ところで、我々日本人はこの時代をどのように捉えているのでしょうか。『不安で子どもも育てられない。また、心配で年もとれない。』そのように思っている方も多いのではないでしょうか。この不透明な時代にあって、和泉は、この「児童」と「高齢者」の課題に、真っ向から挑んでいる大学であるとも言えます。

現在、日本の教育界は大きな転換期にあり、数々の厳しい現実もあります。しかし、その現実を真摯に受け止め、本学が「地元密着型」「実力養成型」の短期大学として地域に貢献できるよう、私たち教職員は、一層の〝教育の充実〟に努めて参りたいと思います。

これからも、皆様方の、変わらぬご指導とご鞭撻のほどを心よりお願い申し上げます。

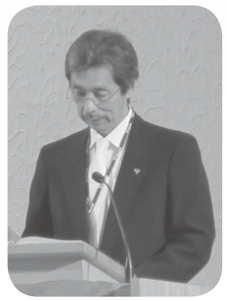
学校法人　和泉短期大学　創立 60 周年記念式典

2016 年 5 月 14 日(土)に本学の和泉クラーク・ホールにおいて学校法人和泉短期大学創立 60 周年記念式典・祝賀会を開催しました。

式典には 80 名の来賓にご参集いただき、キリスト教礼拝形式で行い、相模原市中央区長小山秋彦様、桜美林大学学長三谷高康様、青山学院大学副学長田中正郎様より来賓祝辞を賜りました。

祈祷

学校法人和泉短期大学 チャプレン　西田恵一郎



父なる神、あなたが備えてくださったこのとき、また場を感謝いたします。そして共に、和泉短期大学の60周年の祝いを持てることを感謝いたします。バット博士記念養成所より始まりこの日に至るまで、あなたの護りと導きのもと、常に支えてくださったことを心より感謝いたします。

同時に、あなたが与えてくださった先達に想いを馳せることであります。この方々の、骨身を惜しまず労してくださった、その労があったからこそ、今日の和泉があるとも言えましょう。この方々に感謝の意を表すとともに、この節目の時、私たちの思いを新たにし、あなたを崇め、人々を愛し、人々に仕える者と、私たちがなることができますように。そして隣人を愛し、他者に価値を見いだすもの、自らの衣を脱いで隣人に着せても構わないと願えるような私たちとなることができますように。

そして、私たちを通して、ここから送り出される学生のひとり一人が、我々の背中を見ながら学び、経験を積み、同じように人々に仕える者となっていくことができますように。どうぞこれまでと同様、これからの教育の業をあなたが祝福をしてください。

変えることのできるものと、変えることのできないもの、また、変えてはならないことと、変えるべきことの識別が難しい時代になってまいりました。であるからこそ、一層私たちが、あなたから識別する知恵をいただき、また、変えるべきことを変えていく、力も備えてくださいますことをお願いいたします。

常に前に進み行く学び舎となると同時に、あなたの成してくださった業、またここを立ち上げてくださった方々のことを顧みる想いをもお与えください。

この祝いの時を、どうぞあなたが祝福を持って臨んでください。全ての関係者の皆さまの内に祝福があるように。また、この日この時、それぞれの現場において労している方々をも、あなたが顧みてくださいますことをお願いいたします。

この祈りを、主イエス・キリストの御名によって、御前にお捧げいたします。アーメン。

式辞

学校法人 和泉短期大学 理事長　深町　正信

本日は和泉短期大学創立60周年を覚えて、ここに記念式典を催すこととなり、ご案内申し上げましたところ、各界を代表する方々が、ご多用な中を、このように多数御参列くださいましたことを、まず学校法人を代表して、心から感謝を申し上げます。

『学校法人クラーク学園の創立30年誌』と『創立50周年誌』によれば、和泉短期大学は、米国のキリスト教会に連なる多くの人々の信仰と祈りと献金により、特に、米国のミルズ博士とクラーク博士の働きにより、また、カナダのバット博士の国境を越えた愛の働きにより、1956年(昭和31年)戦後の日本の戦災孤児や生活困窮家庭の児童の救済のための福祉施設に働く訓練機関として、『バット博士記念養成所』として発足いたしました。その翌年には『バット博士記念センター』と社会福祉法人『バット博士記念ホーム』とが開設されました。

1960年、昭和35年には、『玉川保母専門学院』が創設されました。そして、1965年、昭和40年には、東京の世田谷区中町に新たに「和泉短期大学」を創設しました。その場所は、現在の日本体育大学の校地の一部となって居ります。

その後、和泉短期大学は順調に保育者の養成機関としての歩みをなしてきましたが、1976年、昭和51年、現在のこの相模原市中央区青葉の地に、より広い校地を求めて移り、この新しいキャンパスを建設することになりました。

その後、1985年、昭和60年、時代の要請に応えて、いち早く、『和泉老人福祉専門学校』をこの地に開設しまして、介護福祉士の養成にあたってきました。しかし、2009年、平成22年、和泉福祉専門学校を新たに和泉短期大学の専攻科として改組転換することとしました。この専門学校の卒業生は2，800名であり、その多くの方々は現在、指導者、責任者として良き働きをされています。

現在までに、この和泉短期大学の卒業生の数は18，500人でありますが、その多くは地元の保育園、幼稚園、認定保育園、各種の福祉施設で良き保育者、介護福祉士として活躍されていますことは私たち関係者の大きな喜びであり、誇りであります。

和泉短期大学の教育の根底には建学の精神であるキリスト教信仰に基づく教育と、スクール・モットーである「愛と奉仕」による人間の育成という理念があり、そのカリキュラムは保育者、介護福祉士の養成を目指しております。そして「地元密着型」の短期大学としてより質の高い保育者、より人間力のある介護福祉士の養成と、「実力養成型」の短期大学として、自分が将来、子どものため、高齢者のため、障がい者のため、何らかの仕事に携わりたいとの自己実現のために、教職員、学友会、父母会、後援会、同窓会、全学をあげて努力しているところであります。

和泉短期大学の外部評価は、教職員のそれぞれの使命とスキルを生かし合っての努力により、学校法人の格付けでは短期大学法人で唯一の「トリプル・Bフラット」であり、また、財団法人短期大学基準協会による第三者評価では2014年度も「適格認定」となりました。

一昨年は地元の多くの皆様方のご理解とご協力を得て、近くの交差点の名をこれまでの青葉3丁目交差点から和泉短期大学に名称変更をすることができました。現在の保育所不足を少しでも緩和するために、お隣の和泉保育園の新園舎建設事業にあたり、本学は校地の一部をお貸しすることとしました。今後はますます相模原市内5大学との連携協定の趣旨を大事にし、地域に密着した課題の調査、研究を連携して実施してまいりたいと願っています。幸いにも、今年度も教職員が地元の神奈川県、また、相模原市、或いは全国レベルの様々な委員会活動に委員として積極的に奉仕し、発言し、改革の推進のために奉仕する機会を与えられていることを大事に考えてまいりたいと思っています。

結びに、歴代の理事長、学長、理事、評議員、監事として、学校法人和泉短期大学のためにご指導くださいました方々のご労苦に心からの敬意を表します。

本日、和泉短期大学の法人創立60周年記念式典にご多忙の中を御参列くださいました皆様、特に、大学関係者の先生方、高等学校の先生方におかれましては、どうかこれからも、これまで以上に、和泉短期大学をご指導、ご鞭撻くださり、この和泉短期大学がこの相模原の地で、ますます地元の皆様に愛される教育機関、研究機関の一つとしての役割を十分に果たしていけますようにご指導、ご支援、ご協力とを心からお願いを申し上げます。

結びに、新約聖書のコリントの信徒への手紙第一3章6節「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です」とありますが、和泉短期大学のまことの主であり、大黒柱である主イエス・キリストに心から賛美を捧げまして、私の式辞といたします。

祝辞

相模原市中央区 区長　小山　秋彦 氏

ただ今、ご紹介に預かりました、中央区長の小山と申します。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

本日は、和泉短期大学、創立60周年記念式典が、関係者の皆さまのご尽力により盛大に開催されますことを、心よりお喜び申し上げる次第でございます。

また、大学の関係者の皆さまにおかれましては、日頃から相模原市、そして私ども中央区におきまして、様々な事業についてご協力を頂いていること、心より感謝を申し上げる次第でございます。

さて、和泉短期大学が1976年に、相模原市に移転をされて以降、大学と本市は、子育てや福祉など、様々な分野で協力関係を築いて参りました。

その間、相模原市も中核市、また政令市へとステップアップして参りました。そして現在、広域交流拠点都市として発展をすることができたわけでございます。

そして、平成26年11月には、包括連携協定の締結をしていただき、引き続き連携を深めながら、安全、安心の町づくりを進めているところでございます。

皆さんご存知の通り、日本社会は現在、高齢社会、また人口減少社会へと進んでございま

す。その中で、地域コミュニティの姿、在り方が昔と大きく変わってきております。

そして、その中で、人間関係の希薄化が最近、とくにクローズアップされており、課題となっているところであります。とくに、相模原市におきましても、子育て家族の孤立化、これが大きな課題と捉えているところでございます。

その中で、大学におかれましては、地域の子育て家族と学生の交流の場である子育てひろば「はっぴい」を開催するなど、大学独自の、地域に根ざした子育て支援プログラムを展開していただいているところでございます。

このことにつきましては、大変心強く思っておりますし、大変期待を申し上げるところでございます。ぜひ、こちらの「はっぴい」がますます盛んになっていただければと、考えているところでございます。

私たち中央区役所でも、中央区の魅力や特性を生かした町づくりの一層の推進を図るとともに、中央区の区ヴィジョン、人と地域が繋がる、地域資源と人が繋がる、この「繋がる」というのをキーワードに、区民との共同による町づくりを進めているところでございます。

今後につきましても、職員が一丸となって、区民の皆さまが「住んでよかったなぁ」「もっと住み続けたいなぁ」と、そういうような町づくりに、一丸となって取り組んで参りますので、大学におかれましても、引き続きのご支援、ご協力を賜りたいということで今回、お願いをさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、今後とも教職員の皆さまの一層のご研鑽とご尽力により、これまでに築かれました輝かしい伝統と実績をもとに、優れた教育や特色ある研究の展開に引き続きご尽力をされ、この和泉短期大学が益々、発展されますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。本日は大変、おめでとうございました。

祝辞

桜美林大学 学長　三谷　高康 先生

ご紹介いただきました、桜美林大学の三谷でございます。和泉短期大学、創立60周年、心からお祝いを申し上げますと同時に、この素晴らしい記念式典にお招きをいただきまして、大変光栄に思い、心から感謝を申し上げます。

和泉短期大学の今までの歩みは、先ほどの深町先生のお話のように、60年前バット博士記念養成所から始まったと、お聞きいたしました。まさに、幼い子どもへのケアのパイオニアとして発足をし、キリスト教信仰に立った福祉と教育事業を60年間に渡って展開されてこられました。

今でこそ、福祉という言葉は、例えば福祉社会、あるいは福祉国家、きわめて重要な営みとして理解をされていますが、しかし、60年前は、まだまだそうではなかったと理解をしております。

そうした中で堅実に、しかも誠実に歩み続けてこられたことは、私どもにとっては本当に、こころから尊敬をし、その歩みは私どもにとって、実に真似るべきロールモデルとして、感謝を常にしております。

と申しますのは、桜美林大学も、健康福祉学部の中に保育専修という小さなコースがありますけれど、大先輩の皆さま方が築かれた道を、しかもそれは、整地された道を私どもは後を追いかけるように、今歩んでいるところであります。

実は、私は幼稚園の園長を経験したことがあります。桜美林大学へ赴任する前、大阪で幼稚園の運営に携わっておりました。

大阪に来る前は、実は四国の松山のキリスト教主義の学園で教鞭を取っておりました。松山を去るときに、「大阪に行って、幼稚園の園長をすることになった。きわめて不安だから、なにかアドバイスが欲しい」と、当時の付属の幼稚園の園長先生にお尋ねをしたことがありました。「先生、何か良いアドバイスはございませんか」。すると、意外な答えが返ってきました。「あなたは、幼児教育については素人ですから、難しいことは申しません。簡単に言います。ふたつの言葉だけ覚えておいてください。ひとつは『すみません』、もうひとつは『ありがとう』。外に向かっては『すみません』、内に向けては『ありがとう』。この言葉を覚えておけば、あなたでも幼稚園の園長ができます」

私はこのアドバイスを受けてからは、それを守りつつ、何かあると飛んでいって外に向かって「すみません」と謝り、そして内には、先生方に向かって「いつもありがとう」と言い続けて、なんとか10年近く、素人の私でも、無事に園長を務めることができました。

それができたのは、実は、幼稚園の先生方の子どもへの情熱、あるいは幼児教育への姿勢でありました。ひとり一人を大切にする保育。聖書の教えの中に、99匹をいるのにおいても、失った1匹を探し出す。教育とはひとり一人、かけがえのない存在である。教育というのは、畢竟アイデアである。そういうことを先生方は私に常に語ってくれました。

そうした教えを身につけることができた先生方は、キリスト教主義学校において、教育を受けて、そして現場に赴任した方々であります。

私は、幼児教育にとってキリスト教主義というのは最も大切なものではないかと常々感じております。それはどうしてかと言いますと、単に授業だけではなくて、学内礼拝において、学生たちはそこで忍耐や、あるいは正直さや、あるいは誠実さを身につけるということは言うまでもありませんが、それ以上に、幼児教育に欠かせない想像力であったり、あるいは温かい感受性であったり、共感する力、あるいは物の背後にある、目に見えないものに心を注ぐ気持ち。そして、何よりも神に対する敬虔さ。そういうものを身につけることが、幼児教育者に相応しいのではないか。そして成長して、幼稚園で園児たちと一緒に

過ごすのではないかと感じております。

キリスト教学校教育同盟が結成して100年以上になりますけれども、長い歴史の中で、こうした幼児教育に携わる学園もたくさんありますが、その中でも、和泉短期大学は大変重要な役割を担っていただいております。

和泉短期大学の教育理念。そうした清らかさと愛に満ちた人々を、60年の間長きに渡って育ててこられましたけれども、この歴史が80年、100年、さらには200年続くことを心から願っております。

そして、学生たちが卒業するときは「自分は和泉短期大学で育てられた」という気持ちだけではなくて、「自分は和泉短期大学を育てたんだ」という、そういう想いを持って巣立っていく、そうした人材をこれからも送り続けていただければと思います。

創立60周年、本当におめでとうございます。これで私の祝辞といたします。ありがとうございました。

祝辞

青山学院大学 副学長　田中　正郎 先生

ただ今、ご紹介いただきました、青山学院大学副学長の田中でございます。本日は、和泉短期大学創立60周年の式典にお招きいただきましたことを、感謝申し上げたいと思います。

実はこの大学、60年前、戦後の混乱した時期、いつも混乱した時期というのは弱者が虐げられ、貶められ、困窮の中にある中で、とくに弱い子どもを育て、守る、それを支える人材を養成する学校として創られた、とても意義のある学校だと思っており、またとても尊敬しております。

実は青山学院大学も150周年を迎える中で、大学執行部の者として2018年度に向けまして、施設の子どもたちに大学で学ぶチャンスを与える特別入試のようなものを検討しているところでございます。

現在、全国に664カ所ございます。やはり、施設で育てる中で、経済的にも困窮している中で、なかなか学業に打ち込めない者もたくさんおると思っております。

ただその中で、大学で学び、自分の将来を自分で作り、世の中のために尽くしたいという子どもたちも多数おるということは知っております。

学校といたしましては、そういう人たちのための特別入試をして…実はいろんなところに伺っておりまして、大学で学ぶことになった子どもが非常に希望をもち、その希望が一緒にそこで暮らしている幼い人たちに対して希望になっている、ということを知っております。

そういう意味で、ここの短大の卒業生の皆さまは、そういうところで働かれております。

私たちは、その働かれているところで育った子ども…今度は大学生と思うんですけども…それを引き受け、その人たちを世の中に送り出したいという取り組みをしたいと考えておるところでございます。

そのようなことで、60周年を祝うこの先に、そういう子どもたち、学生が育ち、またそれがいい循環で世の中の仕組み、在り方に貢献していっていただけるものと期待しているところでございます。

そういう意味で、和泉短期大学と青山学院大学は、育てていく人材は違うかもしれませんが、思うところ、目指すところは一致しているものというふうに思っております。

思いはひとつ、と思っておりまして、お祝いの席でこのようなご挨拶をさせていただくことを、とても誇りに思っております。そしてまた、感謝しております。

そして、今後ますますこの大学が発展し、多くの卒業生がそういうところで働かれ、私たちの大学は、その皆さまの育てた子どもたちを引き受け、世界に羽ばたかせてあげたいと思っております、ということをご披露し、お祝いの言葉とさせていただきます。本日はおめでとうございます。

学校法人　和泉短期大学　創立 60 周年記念祝賀会

祝賀会は学生食堂において、和やかな雰囲気で行われました。横浜女子短期大学学長平野健次先生、和泉短期大学同窓会遠藤陽子会長より祝辞を賜りましたあと、学生聖歌隊と教職員等による和泉短期大学校歌斉唱、最後に職員応援団によるエールを行って閉会になりました。

学校法人　和泉短期大学　創立 60 周年講演会

2016年5月16日(月) 10時40分より、和泉クラーク・ホールにおいて、学校法人和泉短期大学創立60周年記念講演会を開催しました。

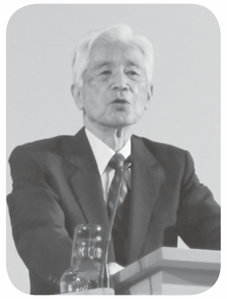
今回は、神奈川県立保健福祉大学名誉学長の阿部志郎先生をお招きして「出会い」と題した講演を2年生、教職員、本学関係者を対象に行っていただきました。

阿部先生は、本学の設立当初のバット博士記念養成所現任訓練講習会時の講師をしてくださり、本学とは大変深いつながりのある先生です。

学生にとっては、今後の現場実習、就職、そして保育・福祉専門職に就いた後も大きな糧となる講演に、大きな拍手が鳴りやみませんでした。

演題 ―「出会い」―

阿部　志郎　先生



私は、この同じ神奈川県の横須賀という街に住んでいます。横須賀に「見守り隊」というボランティア活動があります。登下校する小学生を街角に立って見守るんです。立ってればいいので私にもできるんです。今はしませんけれども、その見守り隊のボランティアをしました。

朝と午後、学校から帰ってくる。5年生の4人の子どもたちが学校から帰ってきました。「お帰り」と声を掛けると、ひとりの男の子がツカツカと私に近づいてきました。そして「おじさーん」、いい子でしょ、おじいさんって言わないの。

「おじさんの髪、なんで白いの?」

そう言いました。周りにおじいさんがいないんでしょうね。

「おじさんはね、キミと同じで子どものとき、毎日学校にいって勉強してよく遊んだよ。大人になってから、人のために働いたんだよ。これはね、そのご褒美をもらったの。でも、頭に毛のないおじさんもいるだろう? あれはね、小さいときから知恵をたくさん溜めたから、頭がピカっと光るんだよ」。「ふーん」。「今度の土曜日の朝9時半、そこの公園をみんなで掃除するんだけど、キミも来ない?」。「ふーん」。

その子、さようならも言わずに帰って行きました。土曜日の朝9時半、この子が公園に来たんです。一緒に並んでゴミ拾いをしました。

私の街では毎朝、6時半からラジオ体操をするんです。私はほぼ皆勤。今朝は早いからいけませんでしたが。夏休みだけ子どもたちがきます。130人くらい来て、一緒に体操するんです。その男の子もきました。一緒にラジオ体操をしました。

今、この子は高校生になって、私より背も高いんです。でも、子どもと年寄りの出会い、嬉しいですね。出会いというのは、あまり起こらないんです。なぜ出会いがないのでしょうか。

お城があるでしょ、お城というのは高いところに立ってて、天守閣があって…熊本城が崩れて大問題になってますよね。街のシンボルです、お城。あの天守閣をもったきれいなお城に殿様がいました。そしてその周りに武家屋敷。家来が住んで、その周りに人々が住みました。

そして、城下町というのは…、今度行ったら見てください、お寺が多いんです。方々からお寺を集めてるお寺というのは、敵が攻められないんです。防波堤になるんです。そして、城下町の特徴というのは、直線道路がないんです。みんな曲がりくねって、迷うようにできているんです。そして敵が来るとみな戦って、最後に殿様だけ守ればいいんです。殿様を守るためのお城でした。周りにはお堀があります。

ヨーロッパのお城というのは、ロンドンもパリもお城だったんです。人々を守るために、城壁を作りました。殿様ではない、人々、民衆を守るためにお城を造ったんです。大きな違いでしょ?

私たちの国は不幸にして、長いこと戦争をしてました。私も軍人でした。そうすると、毎日敵を殺す訓練をするんです。

戦争の終わるころ、国民に標語が出ました。「一億玉砕」「国体護持」。どういう意味かと申しますと、日本の一億の人、全部アメリカと戦って死んでもいい、戦いなさい。でも国体は残そう。国体というのは天皇制。天皇陛下だけ残れば、みんな死んでいい。上と下、これが大事でした。上官の命令には、兵隊は絶対服従。戦死するときは「天皇陛下万歳」と言って死になさいと教えられたんです。でも、天皇陛下万歳と言って死んだ人はほとんどいないですよ。みんな、なんと言って死んだかというと、「お母さーん」と叫んで死んだんです。

でも、上と下という人間関係が大事にされて、横の関係は疎かにされました。

国家というのは本来、私たち国民を守るためにあるんです。なのに戦争前は、人間が国家のためにありました。逆でした。でも私たちの幸せを増すために国がある。それが戦後の平和の、人の、社会だと思います。

隣人という字がありますね。隣という字は、村と村の境目を言うんです。村境、地理的概念です。人がいないんです、隣という字には。英語で「ネイバー」って言うでしょ。ネイバーというのは「近い農民」という意味で、人を指すんです。ネイバーというのは地理ではない、人。

聖書が日本に来て…よきサマリア人の例え話は知ってますよね。「良き隣人(となりびと)であれ」と。隣という字では表現できませんので、やむを得ず「隣」の下に「人」をつけたんです。「隣人」「隣り人」と新しい日本語を、聖書に基づいて作りました。人がいなかった、村境だけ。

家の建て方を見てください。徳川時代の武家屋敷の名残ですけど、まず塀を立てるでしょ。そして門を立てる。門をくぐって入ると、玄関にいきます。玄関というのは、「玄妙の関門に入る」という禅の言葉から取ったんですって。人を見分ける場所なんです。その家よりも身分の高い人間は玄関に入って、中に招じ入れられます。

立派なお客さんがくると、客間に通すんです。茶の間には決して入れません。茶の間というのは家族がいるところ、茶の間じゃなく、客間に通すんです。上級武士の家には、床の間の横に「武者隠し」という小さな部屋がありました。どんな立派なお客さんがきても、家来が刀を持って潜んだんです。いざというときに備えて。信用しないんです、お客さんを。でも、身分の高いお客さんは玄関から入る。

その家よりも身分の低い人は、玄関に入れませんでした。裏の勝手口に回ったんです。人を区別しました。身分によって。

家の中では、家族がみんな助け合います。仲良くします。でも、家から一歩外に出る時はどうしますか。「敷居をまたげば七人の敵」といったんです。家から一歩出ると、七人の敵がいるかもしれないから、注意しなさい。人を見たら泥棒と思えと教えたんですよ。心を許すな。人は遠いんです。

これを、うち、よそ、よそ者って言うでしょ? 血の通っている家族と、血の通っていない他人、よそ者を区別したんです。よそ者には心を許してはいけない。隣というのが、大変遠いのですね。だから、なかなか出会いが起こらないのです。

そういう社会に、私たちは生活をしてきました。でも、ふっと新しい出来事が起こることがあるんです。私は学生の時、23歳、実業家になりたかったんです。だから、経済学を勉強したんです。実業家になるつもりで経済学を勉強したんです。

23歳の夏に、静岡県の御殿場という町でアルバイトをしました。アルバイトを終え、炎天下、1時間ほど歩いて、神山復生病院というハンセン病、昔、ライと言いましたけれど、ハンセン病の療養所に行ったんです。ハンセン病に興味ありませんでした。福祉の施設に行ったこともありませんでした。ハンセン病の人をお見舞いしようなんて高尚な気持ちも全く持っていませんでした。でも行ったんです。

そこに昔、岩下壮一というカトリックの神父がいて、彼は立派な神学者、哲学者で私は影響を受けましたので、岩下先生が死んだところをみたいと思い立って、病院に行ったんですよ。

病院に受付があって、40過ぎの女性が座ってました。「岩下先生の部屋をみたい」と言いますと、「案内してあげましょう」と言って、女性が私を連れて歩いてくれました。

この女性が「私はここでは、ボランティアです」と言ったんです。ここにいる皆さんは、ボランティアって知ってますよね。私は不勉強でボランティアという言葉を知らなかったんです、大学生のくせに。知らないんですよ。

「ボランティアって何ですか?」と聞いたんです。そしたらその女性が、「私は聖心女子大学で英文学を教えています。夏のふたつきの間、ここの受付に座って手紙の受信配信、電話の交換、あなたのような方が来ると案内をします。一銭ももらっていません。それをボランティアというんです」

はぁ～、それがボランティアかと思いました。

その人に連れられて病棟に入って、治療室というところに行きました。昔のハンセン病というのは病院に入ると臭いがきついんです。逃げて帰りたいくらいの悪臭でしたが、我慢して付いて行き、治療室の前に立つと後ろから中へ押し込まれました。中に入りますと、向こうに看護婦さん、今、看護師さんですね、がいて、手前に患者さんが座っていたんです。私は黙って、そのおふたりの横に行きました。患者さんを見ると、耳も鼻もただれ落ちているんです。胸を突かれました。看護師さんを見ると「美しい」と思ったんです。

穏やかで微笑みを浮かべた看護師さんが、患者さんの左手をとって、包帯を巻いているんです。ライというのは毎日腐って、膿がでますと、毎日包帯を変えたんです。その包帯を、膿のついた包帯を看護師さんは、冬でも水で洗ったんです。

その穏やかな平穏な顔をした看護師さんと、テキパキとしたダイナミックな行為との…。私はその均衡を見たんでしょうね。美しい、と思ったんです。

そのとき、頭にふっと、聖書の一節が浮かびました。

「これらのいと小さき者のひとりになしたるは我になしたるなり」

という言葉。マタイの福音書の第25章40節に出てきますけども…。

この一番小さい者のひとりにしたのは、私にしてくれたのと同じだと…イエス様の言葉なんです。その言葉が出てきたんです。ひとり…いと小さき者のひとり。

戦後の日本社会は混乱を極めていました。食べるものもない、着る着物もなかった。

「この社会を変えなければ人間の幸福はない」。宮沢賢治はそう言いました。「世界が幸福にならなければ人間の幸は幸福ではない」と言ったんです。私もそう思ってました。社会を変えよう、社会を変革しなければ、私たちの幸せはこないと思い込んでいたんです。

でも、その看護師さんが私に示したのは、そうではない。この世からなくなることなくして社会の幸福はない。そう思うようになりました。そして、それが私の福祉の哲学になりました。

そこにいた時間、15秒か20秒でしょうか。一言も口をきいていないんです。患者さんの名前も看護師さんの名前さえ知らないです。でも、15秒後に私は黙って黙礼をして部屋を出ました。

部屋を出るときに、私の心は一変していたんです。この看護師さんの後を付いて行こう、そう心に決めたんです。誰だか知らないんです。でも、その15秒か20秒で私は変わったんです。実業に出るのを止めて、福祉の世界を志した。それが動機でした。

こういうことは起こりうるのです。今皆さんはこの短大で勉強して、1時限、2時限の授業、また明日3時限4時限と授業の繰り返しでしょ。

時間は淡々と流れて行くんです。昨日から今日、今日から明日。これをクロノスと言いまして、時間が流れるんですね。

その流れて行く毎日の時間の中に、あるとき突然、人間を超えた力が時間に介入して、決断を迫るときがあるんです。これをカイロスと言います。何か自分に迫ってくるんですね。自分を超えたものが。

カイロスという、人間を超えたエネルギーが自分の中に働くという。これから皆さんきっと経験すると思います。恋愛ってそうじゃないですか? たくさんいる男女の中で、たったひとりとひとりが愛し合うんですよ。自分を超えた何かが働いて人と人が結びつくということがあるんですね。私はそういう経験をしました。

特に、若いときにそういう経験をするというのは非常に大事なことです。皆さんもそういう経験をなさるかもしれません。

アメリカにクラークという先生がおられました。この方は、世界の恵まれない孤児、なんとか援護しようとしたんです。このクラークという先生は一生の間に56カ国の子どもたちの援護をしたんです。

中国の子どもたちを援護していました。でも、中国に政変が起こって、中国にいられなくなり、日本はどうかと考えたんですね。そのクラーク先生と一緒に、ミルスという先生が働いていた。日本では、その孤児の世話をしていた人がたくさんいました。その中に、真鍋という牧師さんがいたんです。そして、中島という先生もいました。その中島先生が和泉短期大学の初代の学長になるのです。

バットという、カナダから来た、ソーシャルワーカーの宣教師がいました。その人たちと、クラークとミルスは出会ったのです。「出会い」です。そして、日本の子どもを援護しようという気持ちがひとつになった。

この出会いが、今日の和泉を、大学を作ったんです。アメリカの先生と日本の先生の出会いによって、この大学は生まれました。出会いって何でしょうか。人と人が出会って、その人の存在がお互いに支えられる、その出会いって何でしょうか。

アメリカの視覚障がいの子どもの施設を訪問しました。玄関に入ると正面に子どもの写真が掛かってるんです。5、6歳の男の子の写真。そのふたりが肩を抱き合って、何かお互いに囁いているんですよ。ひとりが耳を貸している。笑顔のふたりの子どもの可愛らしい写真でした。

障がい児の施設ですから、目の見えない、ふたりの子どもの写真です。その下に、字が書いてあった。近寄ってみました。「the blind are also Color blind」って書いてあるんです。分かりますか、意味。目が見えない視覚障がいの人は赤、黄色が見分けられない……。当然ですよね。目が見えなければ、白か黒か分からない。でも、そう書いてあるんです。

当たり前じゃないかと思いながら、その字を読みました。なんだろう、これは?目の見えない子どもは色も分からない。なんで、こんなことが書いてあるのか、見てるうちにハッとしました。

「カラー」という字なんです。私にとってカラーというのは、赤、緑、原色を指します。でも、アメリカでは特別の意味があるんです、カラーに。それは、人間の皮膚の色をアメリカでは指します。皮膚の色が白いか黄色いか黒いか。色の黒い人をカラード、色のついた人と、差別をしてきました。

そうすると、写真に書かれた文字の意味は「目の見えない子は、人間の

皮膚の色も見えない、だから、白人と黒人の子どもが仲良く肩を抱き、囁き合うことができる」そういう意味だと理解をしました。あー、そういうことなんだと思いました。「the blind are also Color blind」。

私は目が見えます。目が見えると相手が白人か黒人か気になるんですよ。ときにはそこから一歩も外に出られない。私の人種偏見です。目の見えない人は、相手が白人か黒人か区別がない。誰とでも仲良くできる。私のように肉眼は見えても、人種差別によって心の目が閉ざされている者と、目は見えなくても心を開いている人とが相交わって、お互いの魂の目を開き合う。これが「出会い」ということです。お互いの魂の目を開き合うんです、出会いというのは。そういう出会いを私たちが経験することができるかどうか。

聖書に、こういう物語が書かれています。ある人が長い旅をしました。イエス様ですね、イエス様が長い旅をしてシカルという街に行きました。そこにヤコブの井戸があった。喉が渇いてますから、井戸の傍らで休んだ。そこにひとりの女性が水を汲みにきたんです。旅人のイエス様が「私にも水を一杯ください」と頼むんです。すると女性が何と答えたか。

「ユダヤ人であるあなたが、なぜサマリア人である私に水を求めるのですか」

質問じゃないんです。拒絶したんです。「人種が違うじゃないですか」と。

一杯の水を求める人に、一杯の水を差し出せば、そこに人と人の交わりができるんです。にも関わらず私たちは、一杯の水を欲しいという人に一杯の水を差し出すことができない。それが私たちの現実ですよ。

なぜできないか。聖書には、ユダヤ人とサマリア人は交際をしていないから、と書いてあります。お互いを知らないから一杯の水を差しだすことが出来ない、拒否する。

私たちは、知らない人に対して心を閉じますよね。その結果どうなるか。イラン、イラク、イスラム国。戦争です。外国の話ではありません。

私はいま、在日韓国人の老人ホームを作る運動を起こしています。やはり、ヘイトスピーチに遭うんです。「韓国人帰れ」「韓国人死ね」と。ヘイトスピーチです。日本と韓国は交際をしていないからなんです。お互いを知らない。

知らないのが問題なのではありません。知ろうとしないのです。私たちは人を知ろうとしなければなりません。知らないことを知りたい、それが「学び」ということです

学ぶことによって、人間の生きる力が与えられるのです。

知ってること、これだけ。知ろうとして皆さんのように学んでる。だんだん知識が増えてくる。するとどうですか？この接点を見てください。知ってることが増えれば増えるほど、周りの知らないことも増えるんです。知識を増せば増すほど、知らないことが増大していくんです。だから、学ぶということは生涯教育なんです。みなさんも卒業してからも生涯、学び続けるのです。知ることによって人と人との関係が密になっていきます。それが新しい社会を作っていきます。皆さんは学び続ける人です。

お経の一説にこう書いてあります。「今や白髪の生時来たればまさに学道の時なり」。先ほど白髪のことを言いました。年を取ったんです。年を取った今こそ、勉強する時だ。そう、お経に書いてあるんですよ。勉強、学び、それは一生続くんです。

こうして、知らないことをだんだん知るものへ増やしてく。それは大きな喜びです。こうして知ることによって、とくに人と人が知ることによって、そこに出会いが起こるんです。

隣を知らない、隣の人に心を許さない、そういう社会の中で、隣の人に心を許す、そういうときが、やはり訪れます。

1995年1月17日、阪神淡路大震災が起こりました。6，400名の方が命を失いました。一番大きな被害を受けたのが、神戸市の長田区という場所です。長田区で救助された4人に3人は、市役所ではない、警察ではない、消防ではない、自衛隊ではなかった。通りがかった見ず知らずの人が、倒れた家屋から助け起こしたんです。4人に3人を。

見ず知らずの人が「助けてください」という叫び声を聞いて黙っていられないんです。助け起こしたんです。倒れている人を助け起こす、これがサービスということですね。皆さんはこれから、サービスする人になるんです。助け起こすんです。

でも、サービスというのは一方的ではありません。大学の看護学の学生が病院の実習に出ました。産科で産の実習で。産室に入って、看護師の助手を務めるんです。その看護学生がお産に立ち会った。

お産が始まって、赤ちゃんの頭が出て来た。その看護学生、感動のあまり、泣き出して座り込んだんです。感動した。そしたら、お産をしている産婦が、

「あなた、どうしたの？私は大丈夫よ、あなたもしっかりしてちょうだい！」

と、学生に声をかけた。お産の最中ですよ。学生はやっと立ち上がって、そこから働き始めたんです。

助けなければならない学生が、助けられる人によって励まされて、立たされたんです。助け、助けられるというのは相互性です。私が倒れてる人を助け起こす。私が倒れたら助けてもらうんです。相互の働き、相互性によって成り立ちます。

阪神淡路の地震が起こった翌週、私は神戸に行きました。雨が降っていました。雨の中、3人の10代の茶髪の少年たちが、みなさんと同じ頃、働いてるんです。雨の中、自分の体を濡らしながら、支援物資を濡らすまいと、体で庇いながら一生懸命、運んでました。茶髪の少年ですよ。おそらく、人のために働いた経験はなかったでしょう。でも、被災した人をみて、自分の体を濡らしながら、物資を濡らすまいと運んでいる姿を見て、私はその少年たちに優しさを見ました。優しいという字は、憂いに人が関わるという字でしょ。人の憂いを分かち合って、自分も憂いを共にする。それが優しさです。

兵庫県の貝原知事が、「大震災で学んだ最大の教訓は、人の心の温かさを知ったことです」と、こう仰いました。隣を知らない、隣を拒否しても、隣人が倒れたら、よきサマリア人のように、私たちも「助けよう」という想いになるんですね。

助けることによって、助けるというエネルギーを、助けられる人からもらうんですよ。だから、支え、支えられるという人間関係が始まるんです。ここに愛が働きます。愛というと抽象的で難しいですね。愛ってなんですか？

私は子どもたちにこういう話をします。友だちが遊びにきてくれた。遊んでいて3時になると、お母さんがおやつの心配をした。戸棚を開けてもお菓子がないんです。缶からの底に、やっと1枚だけお煎餅を見つけた。そのお煎餅をくれた。友だちとふたりいるのに、お煎餅1枚しかないんです。子どもたちに「キミたち、どうする？」と。

「簡単だよ、お煎餅を手でふたつに割ればいいだろぉ。1枚のお煎餅をふたつに割る。これを半分こっていうんだよ。半分こすればいいんだよ。ふたりで半分ずつ食べればいいだろ」

でも、手でお煎餅を割ると、どうしても大きい方と小さい方になってしまう。先生はね、大きい方を自分でとって小さい方を妹にやりました。妹は嫌な顔をしましたよ。キミたちはそれをしたらダメ。大きい方を友だちにあげなさい。友だち、喜ぶよ。友だちが喜んでくれたらキミも嬉しいだろ？

そういう私は、大きい方をあげられないですよ。私は妻といつも、まんじゅうでもバナナでも半分こしてたんです。いつも私が大きい方を取ってるんです。本当は全部欲しいんです、自分で。我慢して小さい方を、妻に渡しました。欲張りですよ。このときに、大きい方を人に差し出す、それが愛です。愛という言葉は、難しいことではない。半分こしたお煎餅の小さい方を自分で取って、大きい方を人に渡す。その働きを愛というんです。

その愛を、皆さんはどこで学んできたか。皆さんが生まれて赤ちゃんの時、両親、兄弟、家族がみんな喜びました。そして赤ちゃんに声をかけます。何て声をかけましょうか。

韓国では決まってるんです、「カクーン」って。でも、私たちは決まった言葉がないから「いないいないばー」なんて声を掛けるでしょ。一生懸命、赤ちゃんに声をかける。大事なことですね。

その赤ちゃんが泣き出す。何で泣くのか。父親は分かりませんよ。おむつを変えて欲しいのか、喉が渇いたのか、どっか痛いのか、父親にはわからない。お母さんには分かるんです。泣いてる子どもをお母さんが抱くと泣き止む。胎内にいたときの心音を赤ちゃんが覚えていて、お母さんが抱くと、その心音が伝わってくるんですよ。お母さんなんです。だからさっき言ったように、兵隊が死ぬときに「お母さん」と叫ぶ。最後まで、お母さんの愛を覚えてるんです。

お母さんが乳を含ませる。授乳。昔は全部母乳でした。お母さんの乳で育った。私も。他になかった。戦争が終わって、人工栄養がいいという時代がきました。ミルクを飲ませる。今日本は半々です。アメリカは母乳が76％、スウェーデンは94％母乳なんです。日本は半分お母さんの乳。

この授乳、これはニュートリオというんですけれども、この授乳が「保育士、栄養士、看護師」の専門職の語源です。皆さんがこれから保育をする。それは、お母さんが赤ちゃんに乳を与える、その愛を子どもたちに伝えることなんです。

お母さんのその、慈しみをモデルとして、看護師、保育士という専門職が期待をされているのです。この愛をさらに隣人へと伝えていく、見ず知らずの子どもたちに伝えていく、それが保育です。

養護施設で、保育所で、障がい児の施設で、子どもは誰として皆さんと血がつながっていない、他人なんですよ。その他人を隣人にしていくんです。そして、お母さんが自分を可愛がってくれたように、その愛を子どもに伝えていく。それが皆さん方の役目です。母親の愛を子どもに、社会へと拡げていきたいものですね。

子ども、人によっては雑音だというんですね。騒々しい。いま避難所で小さな子どもを抱えたお母さんが困ってるんですよ。「うるさい！」って言われる。でも、災害のときには、私たちは変わるんです。

東日本大震災、50万の人々が、2,500カ所の即席の避難所に逃れました。大地震で、津波で。翌日、その晩は食べるものがない、水がない、寒いのに毛布がないんです。身を寄せ合って一晩を過ごした翌日の午後、やっとむすびとみそ汁が届いた。すると、避難所の人が、「奥の山里の避難所はもっと困っているから、先に持っていってやれ」と受け取らない。それを運んだ自衛隊は、温かいみそ汁には一切手をつけず、冷たい携行食料で通しました。

外国の特派員がきた。すると、ひとりの女性が非常食のむすびを特派員に差し出した。その特派員は「人間の尊厳を持って、苦難の内にいる人の姿を初めてみた」と、外電に大きく報じられたんです。皆で助け合い、分かち合ったんです。

16歳の高校1年生、男の子、津波が来たので避難所に逃げた。津波が引いて戻ると、自分の家の前まで全部津波で洗い流されてなにもない。自分の家は、ひとつ高いところにある自分の家は無傷で残った。残ったんです。私ならラッキーと喜びますよ。その少年は、避難所に帰って、家を流された人々に対して「申し訳ありません」と頭を下げた。できることですか？　16歳ですよ。自分が助かって、人々が災害に襲われて犠牲になっていることに負い目を感じたんです。これが愛です。

皆さんが母親の愛に育まれて、勉強して、知識を得て、技術を学んだ。健康。だから子どもたちのために働こう。そうではないんです。自分が恵まれて、安全地帯にいることに後ろめたさをもつんです。恵まれない人々に対して、可愛い子どもたちに対して。それが働く人々の心情であって欲しいと願います。

皆さん、名前は知っているでしょう。シュワイツァーという、皆さんの前の世代みんなが理想的人物の第1位に出した人物です。この人は神学者で、オルガンの奏者で、医者でした。そしてアフリカで、原住民の医療に携わったんです。子どものときに、シュワイツァーは友だちと相撲をとった。シュワイツァーは友だちを投げ飛ばした。すると友だちが、「お前のように、毎日温かいスープが飲めれば、俺だって勝てるよ」と言った。

シュワイツァーは、これで痛く傷ついたんです。恵まれない子どもに対して、恵まれている自分の罪を感じたんです。自分は将来、医者になって恵まれない人のために仕えようと決心したんです。30歳まで一生懸命勉強して医者になって、アフリカの医療で人々に仕えた。恵まれた家庭にいることに罪を感じたのです。

東日本大震災のときに、私のいる横須賀と横浜と、神奈川県に2つ刑務所があります。この刑務所で、受刑者が自主的にお金を集めた。被災者のための義援金です。その額、300万円。いま日本には約70の刑務所があります。その刑務所で受刑者がお金を集めたんです。総額6千万円。受刑者の1ヶ月の労賃、平均約3,200円くらいなんです。月3，000円しか収入のない人の、多くの人がふた月分の全収入を義援金に捧げてるんです。人のことを考えたことのない人なんです。自分の利益のために、人の利益を踏みにじって犯罪を犯した人なのです。

その受刑者が、災害で過酷な状況に置かれている被災者を見て、初めて人の幸せを考えたんです。人の幸せのために、自分の収入を捧げたんです。自分のことより人の幸せを願った。大きな出来事ですね。

私は、刑務所に光が射したと思いました。否、刑務所が私たちに光を照らしたんです。

人は変わるんです。出会いによって変えられるんです。その出会いを経験するかどうか。

さきほど、サマリアの女性の話をしました。一杯の水さえ差し出すことができなかった。そのときイエス様はなんて仰ったか。

「水を下さいと頼んだのが誰であるかを知っていれば、あなたは私に求めて、命の水を求めただろう。井戸の水を飲んだ者はまた乾く。しかし、私が与える水は、泉となって湧き出て命の水になる」

イエス様はそう仰ったんです。命の水が湧き出る泉。それを聞いた女性は、「私にも水をください」と求めました。井戸の水を渡すことを拒否した女性が、泉から湧き出る命の水を求めたのです。

この大学の皆さんに対する祈りは、いつか皆さんが命の水を求めるときが来て欲しい。それがこの大学の願いなのです。命の水が吹き出てる、湧き出てる泉なんです。

いまここで、お祈りを捧げました。礼拝です。礼拝というのは、私たちが神様を仰いで、神様を賛美するんですね、礼拝というのは。ところが、ドイツ語では違うんです。ドイツ語で礼拝という言葉は、私たちが神様を礼拝するんではないのです。神様の、私たちに対する奉仕、それを礼拝というのです。神様が私たちの上に臨んで私たちに呼びかけてる、それが礼拝なんです。

聖書の詩篇というところにこう書いてあります。「恵みと慈しみはいつも私を追う」と書いてあるんです。

私が神様を選択するのではないのです。神様が私たちの上に臨んで、神様が私たちひとり一人を追ってるんです。何々さん、と呼びかけているんです。

それを「召命」というんです。召命というのは、命を召す、使命感のことです。「コール」というんですね、英語で。神様が呼びかけている。それに応える。それが使命なんです。自分で勝手に、ここに行こうというのではないのです。神様が、私たちに恵みと慈しみにおいて、皆さんひとり一人に声をかけているんです。その神様の呼びかけに対して、「私はここにおります。神様、語りかけてください」と応えるのを信仰と言うのです。

いま神様は皆さんひとり一人を追っていらっしゃるんです。皆さんの上に神様が臨んでいらっしゃるのです。その皆さんが、泉から湧き出る命の水を求めて「神様、私にも命の水を下さい」と応えることができるかどうか。

皆さんは、神様の恵みにおける呼びかけに何と応えますか。それが皆さん方の、これからの長い人生の大切な課題です。皆さん方、ひとり一人の上に神様の豊かな祝福を祈ります。

学校法人和泉短期大学　創立60周年記念事業

2016年度「創立60周年記念事業募金」のお願い

学校法人和泉短期大学は1956年に東京都世田谷区中町でバット博士記念養成所を開設し、同年５月現任訓練講習会が開催されたことに始まり、2016年５月で創立60周年を迎えました。教育の充実を図り、学修環境整備、施設維持整備を目的に、「創立60周年記念事業募金」を行うことになりました。皆様には出費多難の折と存じますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

募金対象事業
1.創立60周年記念事業
2.学修環境整備
3.１号館外壁・鉄部塗装工事
4.その他、関連個所整備

募金目標金額
１億円

募金募集期間
2016年７月　～　2017年３月

募金金額
1.個人　１口　5,000円
2.法人　１口　10,000円

所得税・住民税の寄付控除
本法人への募金(寄付金)については、年間2,000円を超える金額に対して、確定申告をすることにより所得税及び住民税の寄付控除を受けることができます。

法人募金の場合
法人からの募金(寄付金)につきましては、日本私立学校振興・共済事業団を通じて「授配者指定寄付金」として全額損金に算入することができます。詳しくは、下記あてにご連絡ください。

募金問い合わせ先
学校法人和泉短期大学
経理・施設ユニット　042-754-1133(代表)

和泉短期大学60周年記念フラッグ設置

2016年５月11日(水)に、創立60周年記念フラッグサインの設置式を行いました。
今回設置された記念フラッグサインは、室内用大型記念フラッグサイン、校舎外の外灯用記念フラッグサインです。大型フラッグサイン設置は２か所で、１号館と４号館です。大型フラッグサインのサイズは、縦４m、横１m20㎝で、巻き上げ方式の遮光スエードです。１号館がクリーム地にモスグリーン文字、４号館はモスグリーン地にクリーム色文字です。
また、校舎周辺12本、中庭２本の計14本の外灯には、風雨に強いターボリン製フラッグサインを設置しました。サイズは、縦１m10㎝、横50㎝(モスグリーン地とクリーム地)です。
この記念フラッグサインにより、「和泉短期大学」のブランド力が地域で一層上がり、また、学生の帰属意識が増すことを願っています。
フラッグ設置に際して、父母会、後援会、同窓会の方々から、指定寄付金としてご協力を頂きましたことを感謝いたします。

ロゴタイプ・ロゴマーク制定

創立60周年記念事業の一環として、60周年事業委員会を発足し、和泉短期大学のＵＩ(ユニバーシティー・アイデンティティー)としてデザイナー井原靖章氏によりロゴタイプ、ロゴマークを制定しました。

ロゴタイプ(校名)
校章の「力強さ」と「やさしさ」の併存をロゴタイプにおいても貫き、「柔らかさ(丸み)」と「強さ(直線性)」を併存させることで、ロゴマークと調和しつつ現代性をもって「和泉」の精神を伝えます。

IZUMI JUNIOR COLLEGE　学校法人 和泉短期大学

ロゴマーク
このロゴマークは「力強さ」と「やさしさ」を併せ持ち、和泉短期大学の志す「愛と奉仕」の精神を表しています。
校章のふくらみのある逆三角形にあわせ、「IZUMI JUNIOR COLLEGE」のロゴタイプを組み合わせたロゴマークは、エンブレム性を高め、若々しく「和泉」の精神を伝えます。

和泉の学生生活

新入生に聞いた和泉の学生生活

木内　実優
児童福祉学科1年
県立相模原青陵高等学校出身

和泉に入学して3ヶ月が経ちました。入学前教育で何度か授業はうけていたものの、入学後の生活がどんなものなのか不安がたくさんありました。
入学後、覚悟はしていたものの課題が多く、空き時間を利用するなどして友達と課題に取り組んでいます。1日が24時間では足りないと思うことがあるくらいやることがたくさんありますが、充実していて楽しいです。
和泉に入学し保育について学んでいくうえで、やはり大変だなと思うことや将来についての不安はありますが、子どもたちと関わる仕事に就きたいという夢を叶えるために、これからも頑張っていきたいです。

好田　愛菜
児童福祉学科1年
県立麻生総合高等学校出身

和泉短大に入学してから3ヶ月が経ちました。私は和泉のアットホームな雰囲気や、細やかなサポートを受けられるところに惹かれ、入学を決めました。
大学生活が始まり、慣れない90分授業や課題の多さに、最初はやっていけるのか不安しかありませんでした。しかし日を重ねるごとに余裕がでてきて、今では大変さの中に楽しさも感じています。空き時間にはみんなで課題をやったり、ピアノを練習したりしています。「全然出来ない。終わらない。」とぼやきながらも、友人と話しながらやっているといつの間にかできています。課題も多いですがその分、同じ苦労を一緒に乗り越えることで友人との団結力や絆が深まり、出会って3ヶ月とは思えないほど仲良くなれました。今は、毎日楽しく過ごしています。

実習を通して

横木　美里
児童福祉学科2年
都立山崎高等学校出身

幼稚園実習を通して、幼稚園教諭の仕事はとても根気のいる仕事だと学びました。子どもたちに繰り返し声を掛けたり、呼びかけたりする日々の中で、子どもの発育やその時の子どもに合った声掛け、態度がとても必要で、日々変化している子どもたちと根気強く向き合うことが必要でした。大変な仕事ですが、喜びややりがいを感じたり、子どもの成長を実際に間近にみたりすることができ、とても素敵な仕事だと思いました。実習を通して、私は「子どもにとってどうなのか?」など、色々なことに疑問を持つことが足りないのだと分かりました。この事は、これからの課題だと思ったので子どもとの関わりを通して、より深く学んでいきたいです。

永田あゆみ
児童福祉学科2年
県立甲府東高等学校出身

保育園実習を通して、保育者の行動には必ず意味があるということを学びました。何気ない一つ一つの行動にも保育者の意図が隠されており、その一つ一つが子どもの成長につながるのだと知りました。
また、実習では実際に子どもたちと触れ合うことで、座学ではわからない実際の子ども達の姿を見ることができました。
実習は辛いこともあります。しかし、子どもたちの笑顔に囲まれ、保育者になりたいという想いが今まで以上に強くなりました。素敵な2週間となりました。

大谷　美優
児童福祉学科2年
県立相模原名高等学校出身

わたしは障がい者支援施設で実習を行いました。
重度の障がいを持つ方と関わることが初めてだったので、最初はどのように援助を行ったり、コミュニケーションを図ったりしたら良いのかと分からないことだらけでした。
しかし、利用者さん一人ひとりの障がいや特性を理解し、個性として受け入れることがとても大切なことだと学びました。また自分の思いや気持ちを上手く伝えられない利用者さんの立場になって考えることで、その利用者さんに合わせた援助を日々の実習を通す中で行えるようになりました。そしてコミュニケーションでは話をしたい方や隣に居てほしいだけの方もいらっしゃるので、個々に合わせた接し方を図ることがとても重要なものであると感じました。この学びを今後も大切にしたいです。

西田　諒子
専攻科介護福祉専攻
県立相模原高等学校出身

私は今回、特別養護老人ホームへ実習に行きました。実習中にご指導をいただいた多くの介護者の方や、現場で生活をしているご利用者の方々から沢山の言葉をいただきました。「勉強に来てるの?いい経験だね。頑張ってね。」「笑顔で過ごすも一緒、怒って過ごすも一緒。なら笑って過ごした方がいいよね。」これらの言葉はご利用者の方が私に下さった言葉です。その言葉を聞いたとき、ずっと不安を感じていた自分の気持ちがすっと軽くなったような気がしました。その言葉のおかげで実習を心から楽しみながら学ぶことができました。多くの方が支えてくださった今回の実習を今後の学びへ生かしていけるよう、努めていきたいと思います。

保育内容「環境」のアクティブラーニングで、
泥だんごの作成をしました。

「保育原理」のアクティブラーニングで、
お店屋さんごっこをしました。

TOPICS

高校教員進学説明会

2016年５月25日(水)、26日(木)の２日間、本学の「ラーニングセンター will」にて「2016年度高校教員進学説明会」を開催いたしました。本学の概要説明、入試説明の後、個別相談、学内見学をしていただき、本学の教育活動についての理解を深めていただきました。

第８回保育・福祉科目高校教員研究会

2016年６月８日(水)、第８回保育・福祉科目高校教員研究会が開催され、東京都、神奈川県の高校から保育福祉関係科目担当の先生方に参加いただきました。第一部では、河合高鋭専任講師による「障がいのある子どもの保育について」、鈴木敏彦教授による「保育・福祉の最新の動向・法改正について」という２つのテーマにてトークセッションが行われました。第二部では意見交換・情報交換が活発に行われ、本学の専門性と特色を生かした研究会となりました。

第1回和泉プレカレッジ

2016年６月11日(土)相模原市内の保育者を目指す高校３年生44名を対象とした公開セミナー「和泉プレカレッジ」が開催され、千葉仁非常勤講師による「ハンドベルについて　天使の響ハンドベルを奏でよう」と、須藤みぎわ非常勤講師による「身体をつかった表現遊び♪」の２つのミニ講座を受講していただきました。

避難・防災訓練

６月20日(月)、公益財団法人 相模原市まち・みどり公社との共催により、淵野辺公園中央広場で避難・防災訓練を行いました。近隣自治会である青葉二丁目自治会会員の方々、および本学の協力会社であるシダックス、東海ビルメンテナンス、相模設備工業の方々にも参加していただきました。

就職懇談会・就職説明会

2016年５月30日(月)のキャリアデザインⅡの授業にて、「卒業生を招いての就職懇談会」を実施しました。公立保育所、私立保育所、私立幼稚園、児童養護施設に勤務している卒業生を招き、「仕事のやりがい」について講演していただきました。また、横浜市私立保育園園長会、横浜市子ども青少年局子育て支援部、横浜市幼稚園協会の先生方にお越しいただき、保育所・幼稚園の就職説明会を実施しました。

第51回全国私立短期大学体育大会　第６回 結団・ユニフォーム贈呈式

７月20日(水)、和泉クラークホールにて全国私立短期大学体育大会および結団・ユニフォーム贈呈式が開催されました。今年度は、バスケットボール男女各１チーム、バレーボール女子１チーム、バドミントン男子(単)、バドミントン女子(団体・複)、ソフトテニス女子(２名)が出場します。

後援会第９回総会

2016年５月28日(土)和泉短期大学後援会第９回総会が開催されました。木村治男後援会会長の挨拶に始まり、来賓挨拶、2015年度事業報告および決算、2016年度事業計画および予算を審議し、承認されました。また、役員改選が行われ、雑賀えり子氏が会長に選任されました。総会後には、武石宣子特任教授による記念講演「和泉と私、そしてリトミック」でリトミックの理論と実践が行われました。

第62回相模原市民バスケットボール選手権大会

女子バスケットボールサークルが、第62回相模原市民バスケットボール選手権大会一般女子の部において、第３位になりました。

2015年度のベストオブスタッフ賞（第5回）

文部科学省管轄の平成27年度「私立大学等改革総合支援事業」及び「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」に交付申請し、採択されました。

文部科学省補助金作業部会の職員代表として携わり、外部資金の獲得に貢献しました。

※文部科学省補助金作業部会職員チームwillメンバー

学術情報ユニットリーダー深町和哉、経理・施設ユニット主任木村文紀、教育学習支援ユニット　穴井康夫

ラーニングセンターwill

『ラーニングセンター will』が多くの学生に活用されています。授業の空き時間にて、設備されたPCを活用しグループの仲間と課題に取り組むなど、学生の学びがより活発になっています。

卒業生の活躍（第13回）

相模原市立日連保育園
園長（1980年卒業）
岩井みどりさん

相模原市内はとても広く、今までに南区～緑区の保育園を沢山経験し、現在私は湖と緑の山々に囲まれた保育園に勤務しております。場所や人が変わっても子どもたちの成長に思い描く姿は変わりません、いつでも可愛い子どもたちに元気や勇気をもらい一緒に楽しい時を過ごしてきたように思います。

現在子どもたちを取り巻く環境はめまぐるしいほどの情報があふれていますが、私達保育士や大人が、今を生きる子どもたちに何が大切かをしっかりと伝えていく役割があると日々感じています。それは散歩途中に見つける、道ばたの小さなありんこだったり、草花だったり…。そして、人との温かい関わりの中で気がついていく、目に見えない「心・気持ち」が本当に大切なことなんだよ、と子どもたちとともに共感しあいながら寄り添うこと。大きな目標に向かい、毎日一生懸命に取り組む子どもたちと同じ姿が大事ではないかと思っています。

先日、当時のフォークソング部の仲間と三十数年振りに再会しました。楽しい時間を過ごす中、二年間で学んだことが今の力になっている事を確信しました。会話の最後は必ず、「健康に感謝と、どんな時にも前向きな気持ちだね。」という言葉。これからも子どもたちにとっての、よりよい明るく楽しい保育園作りをチームワークを基本に、努力していきたいと思います。

2016年度新任教職員紹介

チャプレン・准教授
西田恵一郎

チャプレン(病院付牧師・学校付牧師・従軍牧師など。「神学と心理学のバイリンガル」という人もいますが…)の学びを終えた私の最初の働き場は病院と老人ホームでした。教会を経て、キリスト教学校で21年。そして、今年から和泉短期大学に。子どもたちを支え育てる使命をもった青年たちを支える、これが私の役割かと思います。18歳の頃にもった「若い人たちと共に…」の私の思いを今も良しとして下さっているなら、神はまた学生たちの思いを大切に、彼らを育て、遣わそうとされないはずがありません。そんな彼らと共に歩んでいきたいと思います。

専任講師
久保小枝子

私は幼稚園で保育者として働いてきましたが、今年度から保育内容、保育方法、キリスト教保育等の教科を担当させて頂くことになりました。

実力者でもあり人間性豊かな先生方、様々なことに丁寧に対応して下さる事務の方々、そして将来保育者を目指して励んでおられる学生さん達と共に過ごせる毎日に、今、大きな喜びを感じています。

学生さんたちが和泉での学びを深めながら、子どもの思いを真摯に受け止め、愛し、適切に援助できる保育者に育って欲しいという願いをもちながら、私に出来ることを精一杯提供し、共に学んでいきたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

専任講師
八代　陽子

今年度より、和泉短期大学の専任講師として働かせていただくことになりました。私は昨年度、和泉で非常勤をさせていただいていました。明るくて、とても素直な学生の姿が印象的でした。このような学生たちと共に学びあえることをとても嬉しく思っております。

私は看護師経験を経て、保育の世界に入りました。東京家政大学大学院時代、愛育養護学校で出会った子どもたちから、保育の奥深さを知り、ますます保育の世界に惹き込まれていきました。保育の学びは人間そのものの学びだと感じております。学生も教員も学びあいながら共に成長していけるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い致します。

キャリアデザインセンター・保育力支援者
田中　理絵

今年度より、キャリアデザインセンターの保育力支援者として勤務させて頂いております。

私は6年前に和泉短期大学を卒業し、幼稚園にて和泉での学びを基に勤めておりました。再び、このようなかたちで母校に携わることができ、大変嬉しく思っております。

幼稚園教諭として過ごした経験を活かし、学生の皆さんの不安や悩みなどを少しでも取り除けるようサポートして参ります。より多くの学生さんが、自信と希望を持って実習先や就職先で活躍できることを期待しています。どうぞよろしくお願い致します。

学校法人役員等改選

次のとおり、改選されました

■理事長
再任　深町　正信
2016年6月13日～2020年6月12日

■理　事
退任　宮本　和武　2016年6月14日付
就任(再任を除く)　長山　篤子　2016年6月15日付

■監　事(再任を除く)
退任　新田　恭平　2016年5月31日付
就任(再任を除く)　小山田小八郎　2016年6月1日付

■評議員
退任　長尾　小山田小八郎　大
芳野　ハンナ
鈴木　敏彦
2016年5月31日付
就任(再任を除く)　原田　康子
松岡　俊彦
遠藤　陽子
西田　恵一郎
2016年6月1日付

人　事

(2016年4月1日付)

■就　任
■伊藤　忠彦　特任教授
■武石　宣子　特任教授
■西田　恵一郎　チャプレン・准教授
■久保　小枝子　専任講師
■八代　陽子　専任講師
■久保田美沙子　助教(契約)
■大嶽　陽子　広報渉外ユニット

■昇　任
■片山　知子　教授
■大下　聖治　教授

訃　報
■故　齋藤　茂氏
(山本正司氏　専攻科専任講師
御岳父　2016年5月22日)
主による平安をお祈りいたします。

―2015年度決算書概要説明―

健全な財政状態

2016年5月21日(土)開催の理事会、評議員会において2015年度決算が承認されました。

2015年度決算概要を説明いたします。 学校法人会計の計算書類は、2013（平成25)年度に学校法人会計基準の一部が改正され、2015年度の会計年度に係る会計処理及び計算書類の作成から適用されることになりました。計算書類は資金繰りの状態を表す「資金収支計算書」、経営状態を表す「事業活動収支計算書」、財政の安全性を表す「貸借対照表」により表示し、私立学校法第47条及び学校法人会計基準第4条に定められた規則に基づき作成しています。

資金収支計算書は、2015年度中の全ての資金の流れを表示した計算書です。資金収入計は771,118千円です。これに対し、資金支出計は、739,876千円です。

2015年度末支払資金(現金預金)は2,069,085千円で、前年度末支払資金(現金預金)に比べ31,242千円増加(資金収支差額)しました。

事業活動収支計算書は、当該年度の学校法人の収入及び支出の均衡状況を明らかにし、学校法人が健全であるかを示す計算書です。３つの収支区分(①教育活動収支、②教育活動外収支、③特別収支)から構成されています。事業活動収入計は825,749千円、事業活動支出は、719,390千円です。よって、事業活動収支差額は106,359千円の収入超過でした。

基本金組入前当年度収支差額(事業活動収支差額) 106,359千円の約87%を学納金に依存しているため､学生数の減少は､本学の運営に甚大な影響を及ぼすことになります。教育活動収入計は、学校法人の純資産を増加させる収入です。事業活動収支差額から第３号基本金615千円の基本金組入れを行ったことにより、当年度収支差額は、105,744千円でした。

教育活動支出の大半を占める人件費は、415,229千円で経常支出に占める人件費比率は、51.1% です。教育研究経費は、179,426千円です。教育研究活動に要する経費全般について効率的な支出に努めました。管理経費は、101,982千円です。法人業務及び管理部門の維持管理運営費の効率的、効果的な支出を図り、経費削減に努めました。

当年度収支差額は、105,744円収入超過となりました。

貸借対照表は、2015年度末における当法人の資産の部、負債の部、純資産の部の３つの要素から構成され、学校法人の財政状態を明らかにする計算書です。有形固定資産の減価償却対象資産(建物、構築物、機器備品等)については、取得価額から減価償却累計額等を控除した金額で表しています。資産の部合計は、8,646,550千円です。退職給与引当金と前受金が大部分を占める負債の部合計は、432,330千円です。基本金と繰越収支差額で構成されている純資産の部合計は、8,214,220千円です。負債の部合計と純資産の部合計は8,646,550千円です。

―2016年度予算書概要説明―

2015年度に学校法人会計基準改正が施行され、計算書類の予算書は、資金収支予算書と事業活動収支計予算書を作成することになります。

資金収支予算書の資金収入合計は、879,336千円、資金支出合計は878,995千円です。

資金収支差額は、341千円収入超過になる見込みです。

事業活動収支予算書は、教育活動収支、教育活動外収支、特別収支の３つに区分され、区分ごとに収支差額を求めます。事業活動収入合計は730,105千円です。基本金組入前当年度収支差額は49,381千円支出超過です。基本金組入額は、第３号基本金として、基金による運用果実(利息)から奨学事業経費を控除した残額607千円組み入れを行い、第１号基本金組入額は、8,294千円になります。

事業活動支出合計は予備費を含め779,486千円です。2016年度繰越収支差額は、58,282千円支出超過になり、事業活動収支差額(基本金組入前当年度収支差額)は、49,381千円の支出超過になる見込みです。

今後の和泉短期大学の財政見通しについて

少子化による18歳人口の減少(2018年度問題)、保育者養成校の増加、入学定員の厳格化等、本学を取り巻く経営環境は年々厳しさを増しています。また、2015年度は私立大学の約43%（250校)、短期大学の61%（192校)が入学定員を満たしていない状況です。

本学は、経常収入の約87%を学納金に依存している現状において、入学者の定員確保、離学者の防止は喫緊の課題です。2015年度は、外部資金等の導入による経営戦略として、文部科学省の競争的資源(教育活性化施設設備整備事業)を獲得し、教育の質の向上を図るため、ラーニングセンター will（自学自習の学びの場)を開設しました。

相模原市に移転後40年が経過し、校舎等の修繕工事計画及び教育研究活動の維持向上を図りながら、経費の削減をはじめとした経営の効率化とのバランスを保ち、一層の財政基盤の強化を図って参ります。

深町正信理事長による2016年度「学校法人和泉短期大学の基本構想」は、４つ柱「１．法人創立60周年記念事業、２．１号館外壁塗装、鉄部塗装改修工事、３．学生・教職員安否確認システム導入、４．時間割改正に伴う教育環境の整備」をもとに事業展開を致します。

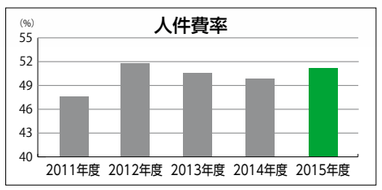
学校法人和泉短期大学は2016年５月創立60周年を迎えました。

年々厳しさを増している状況下において、本学の教育環境を整備充実していくには、将来にわたり支出要因が多いため、2016年度は60周年記念事業募金活動を行い、さらなる発展を目指して今後も「出るを制して、入るを計る」ことを原則として業務改善に取り組み、一層の合理的・効率的な支出を行い、資金の有効活用に努めます。

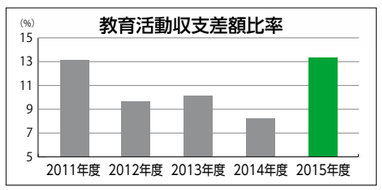
建学の精神である「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」、スクールモットーである「愛と奉仕」に基づいた特色のある教育を展開し、学生にとって居心地の良い明るいキャンパス、地元密着型、実力養成型の短期大学を目指して教職員、法人関係者一体となって努力して参ります。

事務局長　土　橋　正　文

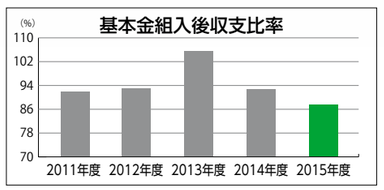
―事業活動収支計算書の財務比率推移グラフと説明―



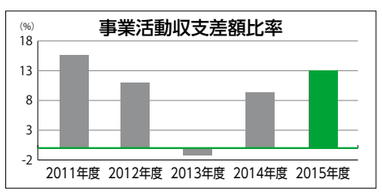
経常収入に対する人件費の割合。50% 以内が目安です。人件費は、経常支出の中でも最大の比重を占める支出です。人件費が膨らんでいくと収支状況の悪化を招きやすい。学生数の減少は比率の上昇を意味するため、人件費削減対策は最重要課題です。



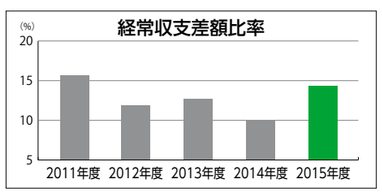
本業である教育活動の収支バランスを表す比率。学校本来の教育活動による収支差額を表わしていて、本業である教育活動収入の範囲内でどの程度余裕を持って運営できているかを把握することができます。



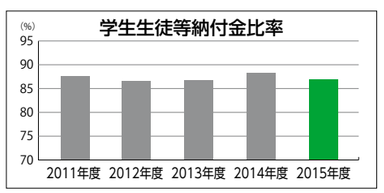
事業活動収入から基本金組入額を控除した額に対する事業活動支出が占める割合を示す比率。90% 以上になると経営が困難になると言われています。臨時的な固定資産の取得等による基本金組入が著しく大きい年度において、一時的に上昇する場合もある。2013年度は、５号館売却による不動産処分差額により100% を超過しました。



従来の帰属収支差額比率。学校法人の純利益を表わす、重要な財務比率。比率がプラスで大きいほど自己資金が充実している。プラス分から将来の施設設備の取替更新の余裕を示す。マイナスが何年も継続して行くと経営は窮迫し、資金が枯渇します。10%以上を経営安定の指標にしています。2013年度は不動産処分差額発生により、マイナスになりました。2015年度は約13%になりました。



経常的な収支バランスを表す比率。この比率は、臨時的な収支を考慮しない、通常の事業活動による収支バランスを示す比率のため、支出超過の場合は財政がひっ迫していることを表しています。支出超過分が、減価償却額の範囲内であれば、資金ショートを起こすことはありません。経営の健全性を表す指標です。



経常収入に占める学生生徒等納付金収入の割合。経常収入に占める学生生徒等納付金への依存度が高いため、今後は収入の多様化が課題です。

―資金収支計算書(概要)―

収入の部

(単位：千円)

科目	2015年度決算額	2016年度予算額
学生生徒等納付金収入	704,937	665,150
手数料収入	9,884	8,470
寄付金収入	1,060	1,000
補助金収入	65,257	40,100
国庫補助金	65,144	40,000
地方公共団体補助金	113	100
資産売却収入	212	0
付随事業・収益事業収入	2,692	2,559
受取利息・配当金収入	9,250	7,000
雑収入	32,457	4,965
前受金収入	235,160	213,450
その他の収入	22,261	149,682
資金収入調整勘定	△312,052	△213,040
資金収入合計	771,118	879,336
前年度繰越支払資金	2,037,843	2,069,085
収入の部合計	2,808,961	2,948,421

支出の部

(単位：千円)

科目	2015年度決算額	2015年度予算額
人件費支出	417,217	399,322
教育研究経費支出	120,456	171,639
管理経費支出	95,228	110,343
施設関係支出	386	101,483
設備関係支出	30,183	10,891
資産運用支出	70,684	46,528
その他の支出	7,332	10,576
［予備費］		30,000
資金支出調整勘定	△1,610	△1,787
資金支出の部合計	739,876	878,995
翌年度繰越支払資金	2,069,085	2,069,426
支出の部合計	2,808,961	2,948,421
資金収支差額	31,242	341

―事業活動収支計算書(概要)―

(単位：千円)

		科目	2015年度決算額	2016年度予算額
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	704,937	665,150
		手数料	9,884	8,470
		寄付金収入	1,060	1,000
		経常費等補助金	52,807	40,100
		付随事業収入	2,692	2,559
		雑収入	32,457	5,826
		教育活動収入計	803,837	723,105
	事業活動支出の部	人件費	415,229	399,322
		専任教員給	209,351	217,734
		兼任教員給	22,287	20,195
		専任職員給	138,233	140,700
		兼任職員給	13,595	15,843
		役員報酬	3,590	4,000
		退職給与引当繰入額	26,952	0
		退職金	1,221	850
		教育研究経費	179,426	232,639
		(減価償却額)	58,967	61,000
		管理経費	101,982	117,525
		(減価償却額)	6,716	7,182
		(広報宣伝費)	19,638	22,518
		教育活動支出計	696,637	749,486
	教育活動収支差額		107,200	△26,381
教育活動外収支	事業活動収支	受取利息・配当金	9,250	7,000
		教育活動外収入計	9,250	7,000
		教育活動外支出計	0	0
	教育活動外収支差額		9,250	7,000
経常収支差額			116,450	△19,381
特別収支	事業活動収支	資産売却差額	212	0
		その他の特別収入	12,450	0
		特別収入計	12,662	0
		資産処分差額	383	0
		その他の特別支出	22,370	0
		特別支出計	22,753	0
	特別収支差額		△10,091	0
［予備費］				30,000
基本金組入前当年度収支差額			106,359	△49,381
基本金組入額合計			△615	△8,901
当年度収支差額			105,744	△58,282
前年度繰越収支差額			2,740,457	2,861,924
基本金取崩額			15,723	0
翌年度繰越収支差額			2,861,924	2,803,642
事業活動収入計			825,749	730,105
事業活動支出計			719,390	779,486
事業活動収支差額(基本金組入前当年度収支差額)			106,359	△49,381
事業活動収支差額比率（旧帰属収支差額比率）			12.9%	－6.8%

―2015年度決算貸借対照表(概要)〈2016年３月31日〉―

(単位：千円)

資産の部

科目	2015年度末	2014年度末	増減
固定資産	6,532,497	6,532,692	△195
有形固定資産	3,054,190	3,111,905	△57,715
土地	1,928,418	1,950,788	△22,370
建物	957,400	1,009,769	△52,369
構築物	18,105	20,881	△2,776
教育研究用機器備品	60,154	43,825	16,329
その他の機器備品	8,523	5,661	2,862
図書	81,590	80,981	609
特定資産	2,729,411	2,675,196	54,215
第２号基本金引当特定資産	100,000	0	100,000
第３号基本金引当資産	330,631	330,016	615
減価償却引当特定資産	1,750,580	1,694,580	56,000
退職給与引当特定資産	188,200	190,600	△2,400
施設拡充引当特定資産	360,000	360,000	0
土地取得引当特定資産	0	100,000	△100,000
その他の固定資産	748,896	745,591	3,305
電話加入権	690	690	0
施設利用権	852	1,004	△152
有価証券	12,000	0	12,000
奨学貸付金	66	488	△422
定期預金	727,727	737,327	△9,600
積立保険金	7,561	6,082	1,479
流動資産	2,114,053	2,041,339	72,714
現金預金	2,069,085	2,037,843	31,242
未収入金	41,532	0	41,532
貯蔵品	3,436	3,476	△40
立替金	0	20	△20
資産の部合計	8,646,550	8,574,031	72,519

(単位：千円)

負債の部

科目	2015年度末	2014年度末	増減
固定負債	188,880	188,318	562
退職給与引当金	186,330	188,318	△1,988
預り敷金	2,550	0	2,550
流動負債	243,450	277,852	△34,402
未払金	1,610	1,574	36
前受金	235,160	270,520	△35,360
預り金	6,680	5,758	922
負債の部合計	432,330	466,170	△33,840

純資産の部

科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	5,352,296	5,367,404	△15,108
第１号基本金	4,848,665	4,864,388	△15,723
第２号基本金	100,000	100,000	0
第３号基本金	330,631	330,016	615
第４号基本金	73,000	73,000	0
繰越収支差額	2,861,924	2,740,457	121,467
翌年度繰越収支差額	2,861,924	2,740,457	121,467
純資産の部合計	8,214,220	8,107,861	106,359
負債の部、純資産の部	8,646,550	8,574,031	72,519

注記　１．減価償却額の累計額の合計額　1,792,932千円

　　２．翌会計年度以降の基本金への組入額　0千円

専門実践教育訓練給付金（専攻科　介護福祉専攻）

＜教育訓練給付制度とは？＞

・厚生労働省による、働く方のスキルアップを支援し、雇用の安定、再就職の促進を図ることを目的とした制度です。
・一定の条件を満たす雇用保険の一般被保険者（在職者）または一般被保険者であった方（離職者）が、専攻科介護福祉専攻に入学し介護福祉士資格を取得した場合、本人が卒業までに実際に支払った学費（入学金、授業料）の40％（上限年48万円）が給付されます。
・支給対象者は、入学までに通算して２年以上の雇用保険の被保険者期間を有している方です。

給付金受給までの流れ

2017年２月末日まで
ハローワークにて相談・申請
必要書類の提出（ご自身で行う必要があります）

→ **在学中**

半年毎にハローワークへ **申請⇒給付**※
※ 2017年10月に**約28万円**
2018年４月に**約４万円**が支給されます。

→ **卒業（資格取得）・就職**

本学で介護福祉士取得後１年以内に就職した場合
申請⇒追加給付※
※ハローワークから**16万円**が追加支給されます

詳細は和泉短期大学ホームページをご覧ください。
問い合わせ先　和泉短期大学　広報渉外ユニット　042-754-1133（代表）

2016年度 保育士資格取得特例講座（幼稚園教諭免許状を有する方の保育士資格取得特例に関する科目）

新たに創設された「幼保連携型認定子ども園」への円滑な移行を進めるため、改正認定子ども園法の施行後５年間は、「幼稚園教諭免許状」または「保育士資格」のいずれかを有すれば、両方の免許・資格を有する「保育教諭」として勤務できる経過措置が設けられています。

和泉短期大学は、相模女子大学と共同で本講座を開設いたします。詳しくは本学ホームページをご覧ください。

※なお、両大学共催による講座は本年度で終了となります。本年度のみ受講の方は、保育士試験科目全科目免除にはなりませんのでご注意ください。

問い合わせ先
和泉短期大学　教育・学習支援ユニット 042-754-1133（代表）

第50回 いずみ祭、みんなで行こう！「いずみのテーマパーク」

10月29日・30日に第50回「いずみ祭」を開催します。本年度のテーマは、みんなで行こう！「いずみのテーマパーク」です。各グループが一致団結して歌い上げる見事な合唱と歌に合わせたパフォーマンスのサウンドコンテスト、子どもから大人まで楽しめるさまざまな出し物や模擬店、高校生向けの入試直前個別相談会など、イベントが盛りだくさんです。熱気と感動に包まれるいずみ祭にぜひお越しください。

同窓会いずみ第7回定期総会
■10月29日（土）11時～12時（受付10時30分）　於：303教室

同窓会主催　いずみのひろっぱ
■10月29日（土）13時～16時、30日（日）11時～16時　於：303教室

スクールバス発車時刻（両日）　相模大野駅・淵野辺駅両駅共　10時発

夏期休業中の改修工事のお知らせ

７月10日から９月３日まで下記の通り改修工事を実施します。ご迷惑お掛けしますが、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

①**１号館 外壁改修工事**　７月10日（日）～９月３日（土）
②**1.2.3号館外部 鉄部及び木部塗装工事**　８月３日（水）～12日（金）
③**２号館 共用部ソフト巾木改修工事**　８月11日（木）～18日（木）
④**1.3.4号館 特定天井の耐震等調査**　８月８日（月）～12日（金）
⑤**１号館 ラーニングセンター入口ドア改修工事**
８月８日（月）～８月12日（金）、８月18日（木）～23日（火）
⑥**１号館 排水管改修工事**　８月18日（木）～８月25日（木）
⑦**１号館中庭 樹木伐採抜根及び植栽**　７月上旬及び９月上旬
⑧**４号館 エレベーターの耐震等工事**　８月中旬２日間
⑨**４号館 ウッドデッキ及びベンチ塗装**　８月中旬３日間